






○どんな組織をつくればいいの？

自主防災組織の一般的な編成は次のとおりですが、地域の実情により、自由に編成してかまいません。

| | 平常時 | 緊急時 |
|---|--|--|
| 情報班 班長○○  | <ul style="list-style-type: none"> ○住民に対しての連絡体制、手段の検討 ○情報収集・伝達訓練の実施 ○防災意識の啓発、高揚に関する広報 | <ul style="list-style-type: none"> ○災害情報を住民に対して正確かつ迅速に伝達 ○地域内の被害情報を収集し、本部へ報告 ○混乱回避、出火防止などの広報 |
| 消火班 班長○○  | <ul style="list-style-type: none"> ○初期消火訓練の実施 ○消火用水の確保、確認 ○出火防止の啓発 | <ul style="list-style-type: none"> ○初期消火活動 ※消防署の到着までの延焼拡大を防ぐ、無理はしないこと！ ○情報班と連携しての出火防止などの広報 |
| 避難誘導班 班長○○  | <ul style="list-style-type: none"> ○事前に避難路、避難場所を把握 ○避難誘導訓練の実施 ○避難路の安全点検 ※危険箇所（がけ、ブロック塀）などの確認 ○避難行動要支援者の確認 | <ul style="list-style-type: none"> ○情報班と連携しての避難の呼びかけ ○安全な経路を選択しての避難誘導 ○避難行動要支援者の避難支援 ○避難地での安否確認 |
| 救出救護班 班長○○  | <ul style="list-style-type: none"> ○応急手当、衛生知識の普及 ○救命講習への参加 ○応急医薬品、救助資機材の確保、点検 ○技能、ノウハウを持った住民の把握 ○救助用資機材の点検・確保 | <ul style="list-style-type: none"> ○避難誘導班と連携しての速やかな救出 ※救出活動は危険を伴う場合があるため、二次災害に十分注意してください。 ○負傷者の搬送、応急手当の救護 |
| 給食給水班 班長○○  | <ul style="list-style-type: none"> ○食料、飲料水の個人備蓄についての普及啓発 ○炊き出し訓練の実施 ○炊き出し用資機材の確保、点検 | <ul style="list-style-type: none"> ○食料や水、救援物資などの受入、配布 ○必要に応じて炊き出し |

本部
 会長 ○○
 副会長 ○○

災害発生時には、自助・共助・公助の連携により人的・物的被害を軽減することができ、ひとたび大規模な災害が発生したときには、公的機関が行う活動（公助）は、交通網の寸断や同時多発火災などにより十分に対応できない

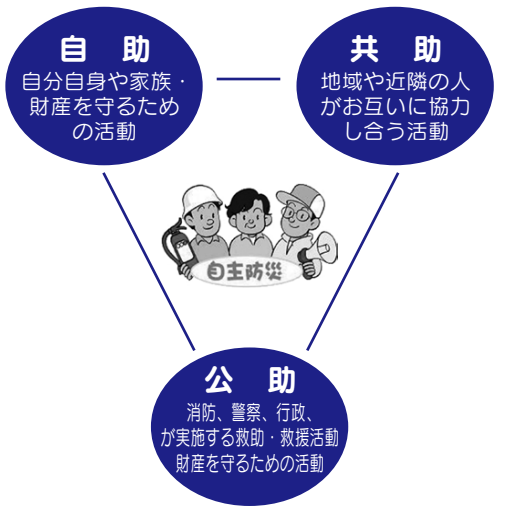


自主防災組織をつくらう

自主防災組織とは、地域住民が協力・連携し、災害から「自分たちの地域は自分たちで守る」ために活動することを目的に結成する組織です。松島では、約75%の地区で自主防災組織が結成されていますが、近年は、その数が横ばいとなっています。今月は、自主防災組織の結成に向けた取り組み方法や運営方法などを特集します。

可能性があるため、個人の力で災害に備える（自助）とともに、地域での助け合い（共助）による地域の防災力が重要となります。

自主防災組織とは
 災害発生時はもちろん、日頃から地域の皆さんと一緒に防災活動に取り組むための組織を「自主防災組織」と言います。
 平常時には防災訓練や広報活動、災害時には初期消火、救出救護、集団避難、避難所への給食給水などの活動を行います。
なぜ、自主防災組織が必要なの？
 大規模な災害が発生した場合、役場や消防署などの公的機関だけでは、十分な対応が出来ない可能性があります。このような時、地域の皆さんが協力し、災害や避難に関する情報の伝達、避難誘導、安否確認、救出・救護活動に取り組み、被害の軽減を図ることが出来ます。また、活動を迅速に進めるためには「お互いの顔の見える関係」の中で、事前に地域内で役割分担を決めておく事が有効です。より効率よく、さまざまな活動をするためにも事前の準備（＝体制づくり）が重要では、※阪神・淡路大震災では、救出された人たちの約8割が、家族や近所の方々に救済されたという報告があり、自主的な住民組織の有効性が改めて注目されています。



- 組織の結成から活動までの流れ(例)**
- ① 自主防災組織の必要性について、地域で話し合う
 - ② 自主防災組織の結成について考えます。地域で災害が起こったときのことを考えてみる。
 - ③ 自主防災組織の基本的な事項について案をまとめる
 - ④ 地域の役員で、組織のかたち、役員の人選、規約、防災計画を検討。（地域の実情に合わせて）
 - ⑤ 地域の総会などで、最終案の合意を得る
- 自主防災組織規約、防災計画、組織の合意、地域全員で互いに協力し合うという意識

防災資機材の配備

町では、組織結成時に防災資機材の配備を行っています。おおよそ5万円の範囲ですが、組織が必要とする資機材を配備します。これまでに、自主防災組織に対してヘルメット、発電機、土のう袋、懐中電灯や鋸、ハールなどが入った資機材セットなどが配備されています。訓練で使う機材が用意できないなどで悩むこともあると思います。そのような場合は、役場や消防署にご相談ください。



訓練内容の場外化

消防署では、初期消火訓練で使用する水消火器などの貸し出し、応急処置・AEDの使い方などを学べる普通救命講習を行っています。訓練の内容などでお困りの場合は役場総務課環境防災班に相談いただければ、訓練の内容への助言などを行っています。

また、これまで地域の防災リーダーとなる方の養成講習会などを実施しています。お気軽にご相談ください。
 ● 問合せ
 総務課環境防災班
 ☎3564-5782

岡山県倉敷市への災害派遣 - 活動報告 -

平成30年7月豪雨（西日本豪雨）で、大きな被害を受けた岡山県倉敷市に対し、松島町では7月10日から8月12日までの約1か月間、4人体制で18人の職員を派遣しました。
 活動内容は、被害が大きかった真備地区内のマービーふれあいセンター・災害ごみ仮置き場における作業支援や地区内での災害ごみ収集活動、真備総合公園体育館での支援物資仕分けや補充作業、倉敷市に隣接する総社市内に設けられた真備地区住民が避難する総社市山手公民館避難所の運営支援（夜間）です。
 倉敷市では、避難所の避難者数も日々減少し、道路に出された災害廃棄物の搬出が進むなど、復旧・復興に向けて歩んでいます。



▲避難所で食事の配給を行っている様子

訓練運営補助金
 町では、年に1回ですが、自主防災組織で訓練を行った際に補助金を支出しています。訓練で必要とされた経費の3分の2もしくは3万円＋組織内世帯数×100円）のどちらか低い金額となります。

④ 自主防災組織の結成
 役場総務課に結成届・規約・防災計画などを提出する。

⑤ 自主防災活動の開始
 組織の結成は、地域防災活動の出発点です。最初が簡単なことから、地道な活動を続けていくことが大切です。